

「けやき俳句の会」会報(第百八十三回)

平成三十年九月五日

第百八十三回句会記録

★日時 九月五日

★場所 けやき学習室

(参加者二十四名)

★真樹先生投句

忘却の過去秋扇また開く

開墾碑萩散る坂をのぼり切る

帰国して開口一番秋暑し

★真樹先生選句(◎は特選)

◎◎現代史の八月をまた読み返す 藍愛

◎◎馬車になる南瓜貫いて思案する かな太

◎◎恵林寺の長き土塀に秋の声 東洋

◎◎草の花古家の開け閉めコツがあり 藍愛

◎◎見開きし眼のままの捨案山子 而今

◎◎秋簾巻き上げ青き空入れる 一華

◎◎口開けの酒に秋茄子添えられて 冬水

◎◎品書きに水が自慢と新豆腐 清明

◎◎父母の魂送る我流の所作なれど 要

◎◎ちちろ鳴くこの静けさが心地よし 春草

◎◎秋袷服に仕立てて思い出も 東洋

◎◎逝きし主しのびて咲くや白芙蓉 青嵐

◎◎吊り橋を渡る子らの背赤とんぼ 蕉哉

◎◎秋夕焼鴉と広場でひと遊び 藍愛

★会員互選句

◎◎声出して暦を破る残暑かな 史烙

◎◎過疎の村開店休業新蕎麦の 香魚

◎◎新涼や会草積で譲る草の花 一華

◎◎吾亦紅母にやさしき介護人 隼人

◎開け放す八月の空忘れまじ 香魚

◎初秋刀魚頭切らるゝ身ぞ哀し 冬水

◎水を出る河馬のお尻に赤蜻蛉 冬水

◎風吹けども稲穂動ぜず黄金色 青嵐

◎就活を話す合い間の夜食かな 秋雲

◎秋風が促す記憶幼なき日 夕佳

◎何時からか待つようになり敬老会 要

◎秋の鈴風の息にもためらわず 史烙

◎陽炎に老人とけゆく歩道橋 史烙

◎勇姿折れ涙に咽ぶ甲子園 而今

◎秋の蟬開く法話の座禅堂 而今

◎読み止しの蔵書繙く処暑の夕 秋雲

◎窓を開けほつと一息星月夜 秋雲

◎かはたれに雨戸開けると残の月 青嵐

◎天衣実るや真紅の烏瓜 夢城

◎勝ち負けも時の流れに百の夏 真弓

◎秋の旅悟り開眼まだ遠く 香魚

◎開墾の土音もなし草の花 一華

◎思い出や色なき風のオブラート 夕佳

◎炎天や五輪開催地の起重機 要

◎終戦忌平成最後の誕生日 蕉哉

◎仲秋の風さやさやと樹木葬 隼人

◎箒戸抜けて苔坪庭の風が行く 清明

◎百歳の版画輝やく走り星 樹音

◎この白桃母と食した同じあじ 春草

◎世相なり男一匹桐一葉 高志

【次回開催】

★日時・十月三日(水)

★場所・けやき学習室

★提出句・兼題「愛」を含み三句